



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 山本 眞

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) office.osaka@nsk.org

第455号 2017年6月25日発行



大阪教区聖職按手式説教

聖職者の務めは「和解の器」として働くこと

聖公会神学院校長 司祭 パウロ 佐々木道人

去る5月3日(水・休)に行われた聖職按手式で、聖公会神学院校長の佐々木道人司祭が説教壇に立たれ、以下のメッセージを語られた。

今日は按手式ですが、教会歴では復活節の只中におります。「復活」とは、私たちの生活に即して考えると、和解、再会が起きることではないかと思えます。争い別れた状態、再会不能な人間同士がもう一度会わせてもらうという切実なテーマであると言えます。

今日私が身に着けて来た白のストールは先日神学院の韓国研修の際、金根祥主教からいただいたもので、このデザインは上下の赤・青で色分けした韓半島を十字架に見立てたものです。いわゆる38度線で分断された韓半島の十字架です。帰国後、日本のメディアの流す韓国・朝鮮に関する情報は、韓半島が分断されている痛みに触れずに、半島の情勢が日本の経済に与える影響というものに終始し、日本のエゴイズムを痛感させられました。韓半島の分断に歴史的に深く関与しているのは日本だという事は忘却されているのです。

私がこのストールに事寄せて「復活・和解」ということに触れるのは、本日按手を受ける方々が、派遣される先で様々な問題におち当たり、「和解の器」として働く、それが聖職の仕事の本質だと信じているからです。このような思いで按手式の聖書を読んでみたいのです。

祈禱書による執事按手の福音書は、来週の復活節第四主日の、イエス様は「羊の門である」(ヨハネ10章)という箇所です。一方、司祭按手の福音書は、イエス様が民衆の有様を深く憐れんで、神に「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のための働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい」(マタイ19章)という箇所です。

昨晚私は仕事柄、寝る前に苦しみを抱え、病にある、とても大変な人々のことを思い出し、自分の無力さに悲しくなり、祈りの言葉も出ず「主よ」と絶句し、その後「主よ、お救いください」とようやく一言つぶやき、眠りにつきました。そして今日の朝は、苦しい昨夜の祈りとはうって変わって、心が燃えるような夢を見、その余韻のうちに目覚めました。その夢では、私は愛してくれただ、先輩や、すでにいなくなった人々と楽しく大

(次頁4段目につづく)

大阪教区に2人の新聖職者

成岡宏晃司祭と金山将司執事が誕生



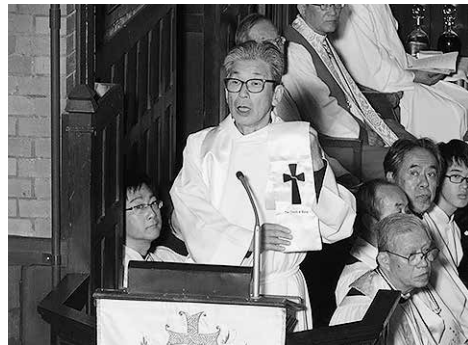
初夏を思わせる5月3日（水・休）の朝10時30分から、主教座聖堂・川口基督教会において聖職按手式が行われ268人が出席した。

司祭按手志願者はフランチエスコ成岡宏晃執事、執事志願者はペテロ金山将司聖職候補生。司式はアンデレ磯晴久主教、式典長はテモテ内田望司祭であった。説教者には聖公会神学院校長のペテロ

佐々木道人司祭を迎えた。当日の信施金199,023円は教区神学生養成資金のためにお献げした。

新司祭の成岡宏晃司祭は、桃山学院高等学校でキリスト教に出会い、関西学院大学在学中に大阪聖アンデレ教会で洗礼・堅信を受けた。教父にあたる日本基督教団牧師で関西学院大学社会学部宗教主事の打樋啓史教授、教母でアン

白のストールを示し
説教される佐々木司祭



デレ教会信徒・プール幼稚園理事長の大坪栄子さん、また指導教授で関西学院大学神学部長の中道基夫教授も参列された。大学卒業後は、同大学院神学研究科に進み研鑽を深めた。大学院修了後2012年4月に、大阪教区神学生として聖公会神学院に入学、2014年3月に卒業した。

同年4月東豊中聖ミカエル教会・聖ミカエル保育園に勤務、2015年3月大西修主教から執事按手を受けた。2016年4月に大阪城南キリスト教会に異動、按手式当日には

（次頁4段目につづく）

（前頁よりつづく）

学のような場で大人も子供も一緒に話をしているのです。人々が話す度に私は「ああそうなんだ」と納得し、その大事な言葉を石の壁にチョークで一生涯書き記してしまいました。そして家に帰り家人に「今まで学んできたことの意味がようやく解ったよ！」と叫んだところで目が覚めたわけです。昨夜の苦しい祈りと、今朝の心温まる夢は、新執事、新司祭の心中を、身代り体験したのかなどと思ってしまう。 「和解の務め」と言う素晴らしいですが、嵐の中に身を置いたり、時には巻き込まれたり、大変な業です。そういう時に私たちは何を頼りに職務を遂行するのでしょうか。それはやはり聖書を読み礼拝する中で身を立

更には「わたしは門であり、わたしを通して入る者は救われる」とあるのは、牧師の職務とは、牧会によって、自らも救われるということを示しているのでしょうか。

また今日の司祭按手のマタイ福音書は、イエス様がありとあらゆる困難にある人々と深い交わりをし、「深く憐れまれる」のですが、それは大変なことで「はらわたする」というギリシア語が用いられています。しかし「はらわたがねじれるような」経験を続けると、人間は燃え尽きてしまいます。そのような状況で「収穫は多いが、働き手が少ない」とイエス様はつぶやきます。このような時こそ、イエス様の祈りのように、「働き手が少ないところに仲間を、助け手を送ってください」と収穫の主に祈り求め、「自らも助けられながら働く」謙虚さをもって歩んでほしいと心から願っております。

主のお力とお守りがありますように。

（ささき みちと・東京教区司祭、聖公会神学院校長）

執事按手のヨハネ福音書は、厳しいことを言います。「イエスという門」をくぐらな人と、羊飼いはすぐに「盗人、強盗」に墮落してしまうということ。そして「門から入る者は羊飼いである」

すように。

（ささき みちと・東京教区司祭、聖公会神学院校長）

父と子と聖霊なる全能の神の恵みが、 常に皆さんとともにありますように

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃



「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」

(ヘブライ人への手紙11:1)

聖職按手式の際に、司祭としてご聖体を分餐いたしました。その時に、陪餐されたお一人おひとり初めて出会った時のことが、分餐をするたびに脳裏に思い浮かび、感謝の気持ちが増え出てきました。きつと、その瞬間はお一人おひとりの中におられるキリストに出会った瞬間であったのであろうと思いつながら分餐の時を過ごしました。
私とイエス・キリストとの

これから

も「キリストの平和による和解」を生きる司祭として、神さまが示される道 (Via Media) を探し、歩き続ける旅人でありたいと願っています。感謝を絶やさず、私たちが共に喜び、泣き、祈る共同体へと、主によって変えられますように。

(なるおか ひろあき・プール学院中学校・高等学校チャプレン、大阪城南キリスト教会牧師)

執事按手の恵みを受けて

執事 ペテロ 金山 将司



去る5月3日に、母教会であり、また、今勤務する教会でもあります川口基督会で、執事按手を受けました。執事に按手されて、それはとても恵みあふれる喜びであり、また新しい務めへの重責に心が

(前頁よりつづく)

同教会牧師に任命された。また同時にプール学院中学校・高等学校チャプレンとして活躍している。

現在の大阪教区で最年少聖職者の金山将司執事は、北関東教区で活躍されているマタイ金山昭夫司祭のご子息。幼少から教会で生活を送り、高校卒業後、桃山学院大学法学部に入学、2012年3月卒業後、同年4月にウイリアムス神学院に入学、川口基督教会実習時に岩城聰指導司祭の推薦で大阪教区に聖職候補志願をした。継続して大阪教区神学生として学び、2015年3月に同神学院を卒業した。同年4月芦屋聖マルコ教会に

勤務、その後大阪聖愛教会勤務を経て、2017年4月より川口基督教会に勤務している。按手式当日、同教会牧師補に任命された。

そして、按手式終了後は、信徒会館でお祝いの会が催され、義平雅夫司祭の司会のもと、来賓からの温かい祝辞が続いた。
(編集部)



引き締まるように感じます。按手されるまで、私は芦屋聖マルコ教会、大阪聖愛教会、そして川口基督教会でお世話になってきました。この3つの教会に改めて感謝したいと思います。

また聖職候補生の3年間の間にお世話になった大阪教区の皆様と、そして導いてくださった神様に感謝いたします。私独りでは執事という重い務めは担うことはできません。この務めを果たすために皆様のお祈りとご指導、ご鞭撻をますますいただければと思います。どうぞこれからもよろしくお願いたします。

(かなやま まさし・川口基督教会牧師補)



大阪・京都特別協働教区運営委員会からのお知らせ (その2)

新緑の季節に、合同礼拝を挙行

司祭 ペテロ 竹林 徑一

「特別協働教区」関係発足記念の合同礼拝、聖餐式・協定調印式が、快晴の5月5日(金・休)午後1時から約

300人の出席を得て、京都教区主教座聖堂・聖アグネス教会で、盛大に行われました。説教者は大阪教区退職聖職の大西修主教で、



京都教区主教座聖堂・聖アグネス教会で

「復活の主により一人ひとりが新しく変えられることによって、私たちは、今、遣わされているこの世界、地域社会、職場、教会を、それぞれの家庭を、変えていく使命を担っている」と語り出されました。一度死ななければ起こり得ない復活を、ご自分の引越しや昨今流行りの「断捨離」と結び付けながらの語り、皆は惹きつ

けられました。

「教会の働きも現在、断捨離が必要な時代に入ってきているのではないか。『神のこととを思わず、人間のことを思う』が故に、勇気の必要な断捨離ができず、宣教の働きの足かせになっていることはないか。『神のこと』を第一に考えるとき、何を断捨離できるかが、少しは見えてくるのではないか。後ろ髪を引かれる思いで思い切った捨てなければ、新しい生活は始まりません。それをすることは、神が御子イエスの復活によってすべての人を救し、愛し、生かしてくださる約束を実現されたことを信じ、その復活の命の喜びにあずかるためなのです。協働すること、新しい出発をするために断捨離をすること、そのことを通して変わっていくことには、絶えず目に見えない恐れと不安が伴いま



調印協定書をかかげる両教区主教

す。しかし、復活の信仰は勇気を持って恐れと不安を打ち払い、主にある希望へと誘って行ってくれることを約束しています。

今私たちは何のために協働し、何のために変わろうとしているのでしょうか? 『あなたがたは神のことを思わず、人間のことを思っている』と主からお叱りを受けないように、神の宣教の業の一端を担わせていただくための勇気と希望を祈り求めたいものです。そして、有名なR・ニバーの祈りと、ヨハネ16:33の「励まし言葉」を引いて、締め括られました。植松誠首座主教は、矢萩新一管区総主事の代読するメッ

セージで、世界のアングリカン・コミュニオンの中でも最も小さな管区・日本聖公会が11もの教区を持ち、小ささ故に、深く緻密で、豊かな関係性を大切にしながら宣教・牧会ができていることが5万とか10万人信徒という海外の教区の主教にとっては到底理解し得ない驚きや羨ましさを与えていることを紹介されました。同時に、小さく豊かな中での現状の困難を直視することを求め、それぞれの教区が持っている人材、財政、資産、活動などの賜物を有効に活かすために、教区間の協働・牧会に積極的に取り組んでいこうとする今回の取り組みに、期待と祝福を寄せられています。

合同聖歌隊(50人)によるアンセム「ともに」の歌詞内容と、礼拝後に開放見学が許された隣の「明治館」での交流の様子が、非常に印象的でした。

(たけばやし けいいち・大阪・京都特別協働教区運営委員、大阪教区常置委員長)

守口復活教会創立65周年を機に名称変更 守口聖オーガスティン教会に

司祭 ヤコブ 松平 功

去る5月7日(日)、守口復活教会は創立65周年を迎えました。そして、この日を境にして守口聖オーガスティン教会に名称変更されました。この改名を記念して「創立65周年および名称変更記念式典」が、磯 晴久大阪教区主教を中心として執り行われました。式典は、記念礼拝、新銘板

除幕式、そして祝会の3部で構成され、第1部の記念礼拝では磯主教から『大阪教区五十年史』を基に守口における教会形成の歴史の流れが話されました。この重要な説教の中で最も大切なお言葉は、「これまで名称変更した教会は少なくない。改名に値する新しい宣教を、この守口の地において進めていただきたい」



という激励でした。守口の教会は1951年に、大阪市旭区の芦澤光雄司祭(当時は伝道師)宅で開設された守口伝道所から始まりました。その翌年、守口復活

教会に改名されて、1955年に現在の守口市土居町で再出発をしています。「聖オーガスティン」という名称は、初代牧師の芦澤司祭の教名から取られています。芦澤時代に篤い信仰に満たされた信徒たちによって教勢が拡大されて行ったことから、65周年を機に当時の教会を想起して、あの篤い時代を継承するため最初から出直そうという思いが改名につながって行きました。

て新しい銘板が披露された瞬間、輝くような笑顔で喜んでおられたのが非常に印象的でした。そして、和やかな雰囲気の中、磯主教の祈りによって第3部の祝会が開始され、多くの方々からの祝福の言葉をいただきました。

その時代を知る信徒は数えるほどしか残っておられませんが、第2部の除幕式においての祈りもすばらしいですね。旧約聖書のエゼキエルは神様から召し出される時、巻物を手渡され、それを食べなさいと言われています。(エゼキエル2:9・3:3) わたしたちはこれから聖霊降臨節を過ごして参ります。イエス・キリストのみ言葉を食するほどに、魂に住まわせることを大切に歩んで行きましょう。(主教 アンデレ 磯 晴久)

皆様からいただいたお言葉は全て素晴らしいものばかりでしたが、その中でも特に印象的であったのは聖ルシヤ教会から来ていただいた太田幸彦氏が「大阪教区のいくつかの教会は、存在していくこと自体が難しくなっているのにも関わらず、何をどのように改善していけば良いのかという答えを見出せないでいる。何かを始めなければと思いつつも、その何かがわからない。この守口の教会も同じなのだと思う。ただ、守口はそんなような中であって、既に何かをやり始めたのだと今日の式典で強く感じた」と述べられたことです。「名前を変えても何の意味もない。何も変わらない」と意見する人もいますが、それは確かなことと改名変更自体に大きな意

それぞれの言葉で



「…だけれもかれも、自分の故郷の言葉で使徒たちが話しているのを聞いて、あつげにとられてしまった。」(使徒言行録2:6)

今年の初め、英国カンタベリーでの新任主教研修会に参加させて頂きました。15か国から参加者がありました。が、礼拝の中で主の祈りを唱

えるとき、司式者からそれぞれの言語でと指示がありました。ひと時ですが聖霊降臨の出来事を体験しているように感じた。皆様の教会や集会でも諸外国からの参加者がおられたら、是非主の祈りはそれぞれのお言葉でと言って差し上げたらいかがでしょうか。さて、その時、私の口から出た主の祈りは、文語の主の

「天にまします我らの父よ…」私が中学一年生の時に、暗唱させられ、その後20歳代まで慣れ親しんだ文語の主の祈りでした。確かに、リズムも良く、長さもびつたりで、他の言語と一緒に祈る時、とても具合が良いことを発見しました。

「みつごの魂」といいますが、聖句が若い日に魂に植えられることは大切です。そういえば、幼稚園や保育園の子どもたちのささげる食前の感謝

(次頁4段目につづく)

大阪聖愛教会

創立70周年記念感謝礼拝行われる

イサク 豊川 雅章

2017年5月14日(日)
に、主教・磯晴久師父、松岡
虔一司祭、古澤秀利司祭、金
山将司執事の聖職団を与えら
れ、14人の出席者と共に創立
70周年記念感謝礼拝をおこな
いました。心よりお礼を申し

上げます。司式者に主教・磯
晴久師父、説教者に松岡虔一
司祭をお願いしました。礼拝
は、ボーイスカウト大阪第87
団の隊旗が一緒に入堂し始ま
りました。松岡司祭は、「創立
した当時の出来事に感謝し、
今日の働きに感謝し、そ
して引き継ぐ人に感謝し
たい」と話されました。
聖歌隊は、練習を重ねた
聖歌を陪餐後に賛美しま
した。



大阪聖愛教会は、19
47年に山崎貞一司祭が
大変な苦労の中で、復活
教会と聖救主教会を合併
されて創立しました。50
周年時作製の「明治・昭
和初期・戦後の大阪市内
地図」をホールに再度掲
示し、復活教会と聖救主
教会に想いを巡らせまし
た。また、当日発行され
た「聖愛報・創立70周年
記念号」は、歴代の司祭

様や年代別信徒から寄稿され、
過去・現在・未来の神様の導
きを確信する記念の冊子とな
りました。

午後の茶話会は、石井英隆
兄の進行で、磯主教様が、聖
愛教会での新婚当時の思い出
や、ボーイスカウト第87団結
成時の松岡司祭の手帳が披露
され、婦人会手作りの美味し
いお菓子を頂戴しながら、和
やかな時を過ごしました。行
き届かぬ点もあったかと存じ
ますが、何卒お許し願います。
さあ、過去に感謝・未来に夢

日本聖公会 大阪教区婦人会

昇天日礼拝・ 第93回教区婦人会総会を終えて

ハンナ 山口 博子

5月25日(金)石橋聖トマ
ス教会において、久し振りの
雨の中、10時30分より昇天日
礼拝、午後12時45分より大阪
教区婦人会第93回総会が行わ
れました。司式は磯晴久主教、
説教は山本眞司祭、福音書は
先日執事按手を受けられた金
山将司執事が奉仕してください
ました。教役者・男性・子

供・婦人会会員を合わせて178
人の出席者でした。
説教では、昇天日はイエス
さまが天に昇られたものではな
く、家を留守にすることと同
じで、いつか帰ってこられた
とき私たちは与えられた仕事
(聖餐)を守ってお迎えでき
るようにしていなさい、とい
うお話をされました。

(前頁よりつづく)
味はありません。最も大切な
事柄は、この守口での宣教が
どのような発展を遂げていく
のかという結果にかかっている
のです。地域の団体や人々
との関わりは当然のこととし
て、この教会にしかできない
何かを模索しつつ守口聖オー
ガステイン教会がこの地にあ
って、なくてはならない存在
として躍進して行けるよう
に

教会がひとつとなって努力し
ようとしています。どうぞ、
神の旨のまま歩み出すこと
ができますように、守口聖オ
ーガステイン教会のためにご
加禱いただけますようお願い
い申し上げます。
(まつだいら いさお、守
口聖オーガステイン教会牧
師、聖ルシヤ教会管理牧師、
プール学院大学チャプレン、
守口ぶどうのいえ施設長)
(とよかわ まさあき・大阪
聖愛教会信徒)



山本眞司祭の説教を聞く

午後の総会は例年通り第1
号議案の決算、第2号議案の
(次頁最下段につづく)

第11回ペンテコステ・ヴィジル 宗教改革500年の節目に 日本福音ルーテル大阪教会で

ミリアム 増山 悦子

毎年恒例となったペンテコステ・ヴィジルは今回で第11回となり、今年は宗教改革者ルターがその改革を開始してから丁度500年目を迎えるという節目で大きな盛り上がりを見せている、日本福音ルーテル大阪教会で6月3日(土)17時から行われました。

後援は大阪キリスト教連合会、カトリック大阪大司教区、日本基督教団、日本聖公会、そしてこの日本福音ルーテル教会という4つの団体で構成されるエキキュメニカルな集まりです。

お説教は越川弘英牧師(同志社大学キリスト教文化センター教授・日本基督教団)が、「聖霊の働きとは何か」を中心に、解り易く熱心に語って下さいました。

「イエス様のご復活から50日目に聖霊が降り、これが教会の始まりとされているが、

実際には弟子達はそれ以前から集まりを持って祈り続けていた。そして聖霊が降り、弟子達は相手に理解できる言葉でみ言葉を語り伝えた。これは相手を敬愛する心から生ま

れた愛の業とされる奇跡だった。今世界中で愛が求められている中、私達一人一人が出



説教される越川弘英牧師

連合男子会「祈りと証しの会」 「さすらいと回帰」と題して

サムエル 名出 正

4月19日(水)、大阪教区連合男子会主催「祈りと証しの会」が大阪聖パウロ教会で開催され私も参加しました。証し人は岩城聰司祭で「さす

らいと回帰」という題でした。お話の中から、そんなにさすらいたわけではありませんが自分自身に置き換えて考えると、次元が違いますが、大

学時代の4年間、百貨店のアルバイトをしていました。日曜日の休みは無く、クリスマス、イースターも行った記憶がありません。教会から一定期間離れることは大なり小なり誰にでもあると思います。家庭の事情、教会が嫌になっ

来ることは僅かなものだが、小さな業から少しずつ世界を変えていこう」と力強く締めくくられました。

出席者約90人、当日の席上献金は60,101円で「被災地障害者支援くまもと」に献げられました。聖霊降臨日を翌日に控え、明るい礼拝堂で心に残る素晴らしい礼拝に出席させて頂けたことに感謝(ますやま えつこ・川口基督教教会信徒)

た、仕事が忙しいとか色々あると思います。しかし、また戻って来ても教会の方々は温かく迎え入れて下さいます。もう一つは初代の信徒と4

代目の信徒との差です。私も4代目です、生まれた時からキリスト教の中にいました。言われて見ると初代の人は、自分で教会の門をたたき、自分で考え、決心し、信徒になる。4代目の私からすれば、岩城

司祭と同じように尊敬致します。本人の意思とは関係なくキリスト教の環境下に置かれていた者からすれば羨ましいような、そうでないような微妙なところでは

(前頁よりつづく)
予算と続き多くの挙手をいただき承認されました。第3号議案としてこれからの婦人会会長選出方法を話し合っていたとき、いままでと違う選出方法はどうかと、役員会から提出しました。

従来、会長選出は会員から推薦された方を各教会の代表者が投票した結果、会長が決まるはずですが、ここ数回は投票で選ばれた方が固辞される場合が多々出てきました。少しばかりの紆余曲折はありましたが、質問・意見を、また会長経験者のお話をお聞きし、議案は過半数の挙手をいただき承認されました。な

お、当日の信施金165,220円は小名浜聖テモテ幼稚園遊具購入のために献げられました。(やまぐち ひろこ・大阪聖愛教会信徒)

当日の出席者数59人、席上献金43,781円は、聖公会生野センターのためにお献げしました。

(ないで ただし・川口基督教教会信徒)



岩城司祭が証し



東日本大震災の街頭募金

1934年9月21日に大阪を直撃した室戸台風によって、生徒17人の命を失うなど、大きな傷を受けたプール学院の復活のシンボルとして、清心館が1936年11月16日に生まれ変わりました。その後、太平洋戦争を生き延び、1956年に増築され、清心館の「増築落成感謝式」において、当時の生徒会長であった堀口照子さんが寄稿された「竣工のご挨拶」の一部をご紹介します。

プール学院中学校・高等学校

シリーズ 聖公会関連施設紹介 ― ⑬

チャプレン 司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

「入学式の後、学校中を見てまわったが、一番美しいと思ったのは清心館であった。黄金の光が白いカラーの上を波打っている。それは日光の流れのためである。中央のガラスに映る木影も自らの命をこの中に托しているようである。毎朝の祈りもなされたせいか、私と清心館はきつても切れぬ気がする。おそらくプール生はみなそうであろう。一步、清心館の中に入ると、その神々しい雰囲気には吸い取られていく。そして思わず手を合わされるのである。(中略) 清心館とは私たち一人ひとりの人間形成の場であり、人間形成をなしていく途中の私たちの姿を見せる鏡であると思う。(中略) 清心館は私たち一人ひとりの意思を形にするものであって欲しい」

プール学院は、宣教師ワレン師の子どもたちをはじめ、



中・高クリスマス礼拝

川口居留地に住む、数人の子どもたちの家庭教師であったメアリー・オクスラドの働きを起源としています。この当時は、礼拝を行う場所がそのまま、勉強部屋でもあったようです。

138年経った今でも、プール学院の生徒、教職員は、朝の眠い目をこすりながら、授業よりも何よりも、まず中学は清心館、高校はメアリーズホールに集められて、礼拝をすることから一日が始まります。教室礼拝の日もありますが、今日一日を、心新たに過ごすために、礼拝堂での祈りをもってスタートできることは非

常に贅沢であると思います。しかし、祈りの本質は礼拝堂で完結するものではありません。礼拝堂での祈りが、生徒一人ひとりの学校生活での言葉や行い、また日々感じている、嬉しい、楽しい、悲しい、悔しいといったような心の思いの中でさらに深められて初めて、毎日の祈りが実を結ぶのです。

そのために実践される、スクールモットーでもある「愛と奉仕の精神」は、「何か良いことをしよう」ということよりも、もつと泥臭く、人間臭く、魂の通い合った共同体

をみんなで創っていくことであると信じています。

校歌『輝きの中で』で歌われているように、「歌い続けて」、「歩き続けて」、「信じ続けて」、聖公会の共同体らしく「旅する共同体」・「解釈し続ける共同体」として、またいつの時代も、生徒一人ひとりの意思が神さまによって祝福され、用いられる学校として、これからも歴史を刻み続けます。

(なるおか ひろあき・プール学院中学校・高等学校チャプレン、大阪城南キリスト教会牧師)

2017年 大阪教区礼拝 (聖餐式)

日 程
9月24日(日) 10時半～

場 所
プール学院中高清图心館



OKリーダー研修会 大阪・京都の青年と教役者が集う

聖職候補生 アンデレ 松山 健作

去る5月5日(金・休)、
桃山基督教会にて18時より大
阪教区生涯学習委員会の青少
年関連部門と京都教区宣教局
教育部の主催でリーダー研修
会が開催されました。

およそ30人ほどの青年およ
び教役者が集い、今年度に予
定されているさまざまなプロ
グラムへの心得やハラスメン
トをしない・おこさないため
の講義を受けました。



そして部門別(「小学生」

「J's」「青年活動窓口」「キッ
ズフェスティバル」「Gルー
プ」の活動報告を聞き、今
年度のテーマについて検討し
ました。今年度は、アングリ
カン・コミュニケーションの「宣教
の5指標」や日本聖公会宣教
協議会(2012)における
提言を踏まえ、「ケリユグマン
「み言葉を宣べ伝えること」
を全体のテーマとすることに
なりました。

このテーマについて、各部
門が今後ミーティングを重ね

ることに学びと交わりを通し
て、「み言葉を宣べ伝えるこ
と」とは何を意味するかを継
続的に考えながら、一歩ずつ
丁寧な歩みを若い世代の人の
とと共に行うことができれば
と願っております。

夏のプログラムは、北小松
キャンプ場で小学生キャンプ
が8月2日〜4日、J'sキャン
プが8月7日〜10日となつて
おります。各教会において、
ご予約くださり、参加者およ
びキャンプスタッフを派遣し
ただければ幸いです。青
年の働きを、おぼえてお祈り
いたします。

(まつやま けんさく・京都
教区宣教局教育部、聖光教
会勤務)

J's 春の キャンプ

熊本の被災地の今を訪ね

歴史にふれる

執事 ペテロ 金山 将司

去る3月27日(月)から30
日(木)にかけて、京都・大
阪両教区から、中学生9人、
高校生14人、J'sプラス参加者

1人、合計24人のキャンパー
と共に春のJ'sキャンプが熊本
で行われました。3泊4日の
宿泊場所は、ルーテル学院高



校の寮を貸していただき、キ
ャンパー、スタッフが寝食を
共にしました。

今年のプログラムは、新大
阪で京都・大阪教区の参加者
が合流し、熊本まで新幹線で
行くことからはじまりました。
初日の27日の午後、バスで益
城、阿蘇の被災地を訪問しま
した。またその途中阿蘇の被
災地の全景を見るために立ち
寄った阿蘇ファームランドで、
おもいがけず、ファームラン
ドが経験した震災の当日の話
を伺うことができました。翌
日28日の午前に、熊本聖三一

教会の被災された信徒の方か
ら震災の直後、また現在に至
るまでの状況をお話しただ
き、さらに震災の現実につい
て人の経験をを通して触れてゆ
きました。

また今回のJ'sキャンプは被
災地を訪ねるだけではなく、
熊本という地域についても学
ぶキャンプでした。28日の午
後にリデル・ライトホームを
訪ね、降臨堂の信徒の方から
ハンセン病について紙芝居を
見せていただきました。また
リデル・ライト両女史の働き
を映画を使って説明してい
たとき、ホームの中を案内した
とき、現在もご遺骨のある納
骨堂とその周辺の説明を伺
いました。

29日は熊本のキリシタン史
跡を訪ね、天草方面を巡りま
した。大江天主堂、崎津天主
堂などキリシタンの地を巡り
つつ、天草ロザリオ館という
博物館で学びの時をもちまし
た。多くのキャンパーたちは
熊本が隠れキリシタンが信仰
を守り続けていたところであ
ることは知っていても、実際
にキリシタンが生きていたと
(次頁4段目につづく)

春キッズフェスティバル2017

テーマは「出会い・愛・I」

へレナ 齋藤 みち

ーの感想。

4月29日(土・休) 川口基督教会を会場に春キッズフェスティバルが開かれました。

大阪・京都教区協働の取り組みとして参加者は151人。内訳は、子ども63人(大阪教区42人、京都教区21人)大人88人で、大阪教区14教会、京都教区12教会、神戸教区から信徒1人の参加がありました。テーマは、「出会い・愛・I」。ザアカイの出来事を通してイエスさまとの出会い(愛)を分かち合うプログラムで、グループ毎に青年リーダーと行動を共にしました。以下は京都・神戸教区より参加したリーダー



四角いくす玉から愛が降り注がれる!?

初めて参加し、小学生グループのリーダーとしてグループの子ども達と仲良くなれるか不安でしたが、子ども達は人懐っこく、

今回初めて参加、いろんなことが学べました。シャボン玉の担当もして、自分たちで考えたことが形になって、子どもたちが楽しそうにしていると嬉しくなりました。けれどほかのメンバーの方々にも手伝っていただいたからこんなよいものになったのだと思っています。この経験を生かして来年も素敵なキッズフェスティバルをつくるメンバーの一員になりたいです。

(平安女学院高校3年 北澤梨紗子)

あつという間に仲良くなれました。4つのブースで、先生方がザアカイのお話をしてくださいました。私自身も、やりザアカイについて知ることができました。キッズフェスティバルは小さい赤ちゃんから大人までが参加でき、たくさんの人たちによって作られているんだなと実感しました。新たな出会いもあり、楽しいひと時を過ごすことができました。

(神戸教区 藤岡夏未)

今回、初めて参加です。「であい・愛・I」というテーマのもと、子どもから大人の方まで、ゲームやグループ活動を通して様々な交流ができたのではないかと思います。参加された方一人一人の笑顔を見た時、とっても心が温かくなり、「愛で溢れているなあ」と嬉しくなりました! スタッフとして、ままならないこともあったと思いますが、皆さんの優しさに支えられ、やり遂げることができました。本当にありがとうございます!

(平安女学院高校3年 國府果音)

(前頁よりつづく)

ころを訪れるのは初めて、という人が多く、キリシタンが生きた迫害の時代の史跡を実際に訪ね、資料館で学べたことは大変良い体験だったと思います。

今年度の春のJ'sキャンプがこんなにも多くの参加者と共に開催できたことを感謝いたします。今回のキャンプを終えた青年たちが、熊本で学ん

(さいとう みち・大阪教区生涯学習委員会 子どもプロジェクト担当、石橋聖トマス教会信徒)

だこと、感じたことを京都・大阪へと持ち帰り、伝えていくことができたのなら幸いです。今後も継続してこの活動を続けていくため、大阪教区から多くの青年スタッフの参加と、教区の皆様の協力をいただければと思います。

(かなやま まさし・大阪教区生涯学習委員、川口基督教会牧師補)

京都教区・大阪教区合同

小学生キャンプ2017

ーテーマー
アプリボワゼ ~ 新しく絆を結ぶ ~

ー主題聖句ー
『「今日」という日のうちに日々励まし合いなさい」
(ヘブライ人への手紙 3:13)

日程: 2017年8月2日(水) ~ 4日(金)
場所: 京都復活教会 北小松研修所
(琵琶湖、大津市北小松鵜川)

対象: 小学4年生~6年生
参加費: 1万円

お問い合わせは、
大阪教区: 司祭 古澤 秀利 (090-9165-5862)
京都教区: 聖職候補生 柳原健之 (080-2444-6558)

主催: 日本聖公会京都教区教育部小学生部門
日本聖公会大阪教区生涯学習委員会

世界の窓

○英国聖公会マンチェスター教区主教が自爆テロ後に声明を発表

マンチェスター教区のデイビッド・ウォーカー主教は英国北部のマンチェスター・アリーナで発生した自爆テロに関して、以下のような声明を発表した。なお、このテロにより、22人が命を奪われ59人が負傷している。「今日が死者への追悼の日であり、遺族と共にまた傷つけられた人々と共に祈る日である。そして、その祈りは我々が命を脅かしたり傷つけたりする脅威に決して屈しない決意を再認識させるものである。他の主要都市と同様に、マンチェスターがテロのターゲットに選ばれる可能性は大きかったが、このテロは特に若人の集うコンサート会場を意図的に選択したという残虐行為である。多くの人々がこの悲劇の影響を受け続けるという人生を余儀なくされ、これからの何十年もの人生を22人から奪い去ったのである。しかし、この事実に向き合ってもなお適切な怒りを求める。その怒りを良き力へと向けさせることが、我々の挑戦となるだろう。我々は犠牲者やその家族と結束し、テロリストが分裂を引き起こそうとする目的に対抗するため、多様性を超えてひとつにならなければならない。そして、被害を受けた街を以前と同様に修復する。追悼の日を憶え、偉大なマンチェスター及びその他の教会に、祈りの場所と時間を提供するよう求める。この日を暴力によってではなく、愛の力によってテロに立ち向かうという始まりの日としたい。キリスト者が祝う復活節の愛によつて」。

(Anglican Communion News Service, May 23rd, 2017)

○ニュージーランド地震で被災したクライストチャーチ大聖堂の運命

ニュージーランド聖公会は、6年前の地震で甚大な被害を受けたクライストチャーチ大聖堂の今後について、本年9月に決定されることを発表した。大聖堂を修復するか、あるいは近代的建造物に建て替えるのかをクライストチャーチ教区の委員会が判断を下す。都市再生に関係する地方議員が解決を強く求めており、運動家たちも都市の象徴である大聖堂の修復に政府が早急に関与するよう求めている。教区の不動産部門では、このような現状が足を引っ張る形となり結論を遅らせているのだと弁解している。ヴィクトリア・ア・マシュー主教は「我々の愛する大聖堂の将来を決定するのに時間をかけ過ぎだと、市民の皆さんが不満を抱いていることは認識している。教会も教区全体も同様にその不満を共有している。深く考え祈った結果、2017年9月に開催される教区会において大聖堂の将来について結論を出すことを決定した」と語り、「大聖堂は礼拝の場であり、将来を決定するのは、その場を使い続けていく教会の信徒と聖職者から成る教区会であるべきだ」と政府の介入を否定している。ただし、その結論はクライストチャーチ市民の意向を考慮に入れるため、科学的調査を行い、それを結論に反映させる形をとる。大聖堂を修復するのが近代建造物に建て替えるのか、意見は割れているが早急に調査し結論を出すとしている。なお、2011年に発生したクライストチャーチの地震によって、留学していた28人の日本人が亡くなっている。

(Anglican Communion News Service, May 23rd, 2017)

司祭 ヤコブ 松平 功 (まつだいら いさお、守口 聖オーガスティン教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、プール学院大学チャプレン、守口ぶどうのいえ施設長)

社会宣教委員会から

釜ヶ崎フィールドワークのご案内

社会宣教委員会は10月21日(土)に釜ヶ崎フィールドワーク・講演会を行います。15時から講演会が始まり、16時半からフィールドワークを行う予定です。フィールドワーク中に夕飯を取り、19時終了予定です。

講演会では、釜ヶ崎キリスト教協友会の吉岡基さんをお招きしてお話を伺います。釜ヶ崎と聞くと、「日雇い労働者の街」や「ホームレス・野宿者」といった言葉が思い浮かぶかもしれませんが釜ヶ崎が日雇い労働者の街と呼ばれるのでしょうか。また野宿をする人がいるのでしょうか。講演会では、釜ヶ崎の歴史やそこで生活する人々について、お話を伺います。

講演会後にフィールドワークを行います。この10年で釜ヶ崎の風景は大きく変わったと言われています。そして今後、ますます変化していくだろうと予想されています。街の変化にも触れながら釜ヶ崎の街を実際に歩きたいと思えます。子どもから大人まで参加できるプログラムです。どうぞご予定ください。

(講演会場は釜ヶ崎内の施設を予定しています。教区報8月号の告知でお知らせいたします。)

(社会宣教委員会)

威に決して屈しない決意を再認識させるものである。他の主要都市と同様に、マンチェスターがテロのターゲットに選ばれる可能性は大きかったが、このテロは特に若人の集うコンサート会場を意図的に選択したという残虐行為である。多くの人々がこの悲劇の影響を受け続けるという人生を余儀なくされ、これからの何十年もの人生を22人から奪い去ったのである。しかし、この事実に向き合ってもなお適切な怒りを求める。その怒りを良き力へと向けさせることが、我々の挑戦となるだろう。我々は犠牲者やその家族と結束し、テロリストが分裂を引き起こそうとする目的に対抗するため、多様性を超えてひとつにならなければならない。そして、被害を受けた街を以前と同様に修復する。追悼の日を憶え、偉大なマンチェスター及びその他の教会に、祈りの場所と時間を提供するよう求める。この日を暴力によってではなく、愛の力によってテロに立ち向かうという始まりの日としたい。キリスト者が祝う復活節の愛によつて」。

(Anglican Communion News Service, May 23rd, 2017)

○ニュージーランド地震で被災したクライストチャーチ大聖堂の運命

ニュージーランド聖公会は、6年前の地震で甚大な被害を受けたクライストチャーチ大聖堂の今後について、本年9月に決定されることを発表した。大聖堂を修復するか、あるいは近代的建造物に建て替えるのかをクライストチャーチ教区の委員会が判断を下す。都市再生に関係する地方議員が解決を強く求めており、運動家たちも都市の象徴である大聖堂の修復に政府が早急に関与するよう求めている。教区の不動産部門では、このような現状が足を引っ張る形となり結論を遅らせているのだと弁解している。ヴィクトリア・ア・マシュー主教は「我々の愛する大聖堂の将来を決定するのに時間をかけ過ぎだと、市民の皆さんが不満を抱いていることは認識している。教会も教区全体も同様にその不

満を共有している。深く考え祈った結果、2017年9月に開催される教区会において大聖堂の将来について結論を出すことを決定した」と語り、「大聖堂は礼拝の場であり、将来を決定するのは、その場を使い続けていく教会の信徒と聖職者から成る教区会であるべきだ」と政府の介入を否定している。ただし、その結論はクライストチャーチ市民の意向を考慮に入れるため、科学的調査を行い、それを結論に反映させる形をとる。大聖堂を修復するのが近代建造物に建て替えるのか、意見は割れているが早急に調査し結論を出すとしている。なお、2011年に発生したクライストチャーチの地震によって、留学していた28人の日本人が亡くなっている。

(Anglican Communion News Service, May 23rd, 2017)

司祭 ヤコブ 松平 功 (まつだいら いさお、守口 聖オーガスティン教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、プール学院大学チャプレン、守口ぶどうのいえ施設長)

台湾聖公会訪問旅行

第5期宣教協働(姉妹教区)関係更新の調印式を終えて

司祭 ジョイ 千松 清美



「牧愛堂」前にて

5月9日(火)から12日(金)まで、日本聖公会大阪教区聖職・信徒を中心に24人が台湾を訪問しました。5月9日に、昨年人事交流プログラムとして大阪教区で3か月間研修さ

れた李鎮丞(リジンジョウ)司祭が牧会しておられる牧愛堂で、第5期宣教協働(姉妹教区)関係更新の調印式を行うのが目的でした。1期3年で更新してきま



両司祭による調印式

流関係が13年目に入りました。調印式は聖餐式の中で行われて、説教を磯崎久主教が担当されました。ヨハネによる福音書15・1〜8の箇所から磯主教は、イエス様という確かなブドウの木につながってさえいれば、枝である私たちは大丈夫なのだということ、そし

てこのことは台湾聖公会と大阪教区の関係でも、イエス様を中心にして結び合わされていけば、互いの関係性は豊かにされ、祝福されたものになるのだと話されました。私

はその後訪問した二つの教会から、何とも言いあらわされないくらいの温かい心からのおもてなしを受けて、まさにイエス様が私たちの中心におら



贈られたチャリス・パテンを前に

れ、互いの関係の一つに結び合わせてくださっていると感じとめることができました。毎回の訪問時に頼榮(ライロウ)信主教あるいは台湾聖公会に贈り物をお渡ししますが、今回は川口基督教教会信徒の内海紗英子さんに制作依頼し、螺鈿(らでん)で装飾された漆塗りの「チャリス・パテン」を調印式の席でお贈りしました。記載する写真がうまく映し出

が、大変美しい作品で頼主教はじめ出席された皆さんが感動してくださいました。頼主教からお願いで、その場ですぐに磯主教により聖別され、牧愛堂の聖卓の上で輝いて見えました。そして、第5期に入った姉妹教区関係はこれまで以上に具体的な宣教協働をしていくことになりました。現在、3年間の宣教プロジェクトを計画中です。今年は、8月17日(木)〜26日(土)の9日間の日程で、聖ヨハネ科学技術大学チャペル降臨堂の主催で

行われる「協力宣教キャンプ」(主にプログラム前半で訓練を受けた青年たちが、後半は台南地域で原住民の子ども達に宣教活動をするもの)に招待してもらい、大阪教区から青年3人と引率スタッフ数人が参加します。来年は同じ時期に大阪教区へ台湾聖公会の青年と引率スタッフをお招きし、合同でキャンプする予定です。そして、再来年は両教区が合同で海外宣教に出かけようと計画しています。

両教区の協働が、イエス様(次頁4段目につづく)

台湾聖公会との記念品交換



平和のしるしの十字架

5月9日に牧愛堂(台北)で行われた大阪教区と台湾教区の宣教協働関係更新の礼拝において、記念品の交換が行われた。台湾教区からは、1958年

に中国軍が金門島(台湾領)に対して行った集中砲撃の砲弾から造られた平和のしるしとしての十字架が磯晴久主教に、また、大阪教区からは川口基督教会

信徒の内海紗英子さんが制作した螺鈿のチャリス・パテンが頼榮信主教に、それぞれ渡されました。



大阪教区から螺鈿のチャリスとパテン

2017夏 J's キャンプ



日程：2017年8月7日(月)～10日(木)

場所：京都復活教会北小松研修所(琵琶湖、大津市)

対象：中学生・高校生世代の方

参加費：15,000円(宿泊費・食費・保険料など)

申込：京都教区教務所 教育部 J's キャンプ宛

締切：7月18日(火)必着(郵便、ファックスにて)

主催：日本聖公会 京都教区 宣教局教育部 J's 部門
日本聖公会 大阪教区 宣教部生涯学習委員会

台湾訪問で思いがけないプレゼント 三位一体を味う旅

カタリナ 野上千春

日本聖公会大阪教区主催の旅行は、その歴史を学べたり、他国聖公会との交流を持ったりと、視野も広がり大変勉強になります。また日頃仕事に追われ続けている身にとって、軽く現実逃避?もできる最高の休暇です。
『神さまの陰に隠れて骨休

め』という一句まで浮かび心待ちにしておりました。ところがなんと、今回はまさかの司祭さまが同室だと告げられました。いえいえ、これも神さまのみ心だと考えつつ、緊張の面持ちで当日を迎えました。果たして結果は、この4日間、共に楽しく心地よく、

リラックスして過ごすことができませんでした。神さまに、そして司祭さまのお人柄に、心から感謝します。
また期間中、3つの教会を訪問した際には、その全てに幼児園(日本でいう認定こども園)が併設されており、園児達の可愛らしい歌やダンス

の歓迎を受けました。私は保育園に勤めておりますので、隙間時間に園内の見学もさせて頂き、園長先生方とも保育園事情を語ることができました。行程表には載っていませんでしたが、思いがけないプレゼントでした。

り、教会の宣教協働の旅であり、また名所巡りの観光旅行もできたという、三位一体!?を味わえる旅となりました。次回またこのような楽しみが訪れることを願い、現実に戻りたいと思います。
(のがみ ちはる・川口基督教会信徒)

(前頁よりつづく)
につながる兄弟姉妹として、より豊かな実りを携えて神様の祝福を受けることができそうですように、これからもお祈り

に覚えてください。
(せんまつ きよみ・大阪教区台湾交流委員会委員長、石橋聖トマス教会牧師)

特別寄稿

聖ガブリエル教会で
日韓合同の張本榮司祭記念式

司祭 ペテロ 岩城 聰

3月22日(水)午後5時から、聖ガブリエル教会において、大韓聖公会の韓日協働委員会と日本聖公会の日韓協働委員会の共同主催による「張本榮司祭 司祭按手60周年・逝去50周年」の記念礼拝が行われました。

張本榮(日本名 はりもと さかえ) 司祭は戦前戦後を通じて、特に在日韓国人・朝鮮人の間で福音宣教に励まれた在日の聖職です。長い執事の時代から、桃谷に建設された教会を拠点に、多くの人々にキリストの福音を述べ伝えられました。立教大学在学中に、関東大震災で朝鮮人を襲撃した事件に巻き込まれ、当時の奈良基督教会の牧師に匿われたという体験もしております。特に、戦争中は日本も行動の自由の点でも大きな苦難を強いられました。聖ガ

ブリエル教会は戦後、桃谷から城南キリスト教会や難波プラザビルでの仮住まい時代を経て、現在の生野区小路の地に土地を得て、博愛社こひつじ乳児保育園、地域活動センターの聖公会生野センターと三者が協力してイエス・キリストの福音を証しする体制が取られ、1992年に新しい礼拝堂が建築され、今日に至っています(なお、聖公会生野センターはその後、より広い活動拠点を近くの建物に賃借で確保することができました)。

当日の礼拝は、日本語と韓国語の双方を用いた夕の礼拝の形式で行われ、司式は日本聖公会・日韓協働委員会委員長の磯晴久主教(大阪教区主教)、説教は大韓聖公会・韓日協働委員会委員長の金根祥主教(ソウル教区主教)が担当されました(通訳は柳時京

司祭)。金根祥主教は4月に主教が交代するため、韓日協働委員会としての最後のご奉仕となりました。金主

教は、張本司祭の苦勞を振り返り、日本に残された大きな足跡を讃え、主の恵みに感謝されました。

礼拝後、聖ガブリエル教会信徒の浅海由里恵さんが2カ月をかけて準備された『写真で見える聖ガブリエル教会の歴史』というプレゼンテーションがあり、豊富な写真を駆使した説得力のある報告に、大きな共感と感動が起りました。通訳を担当した韓国人青年ムン・ジヒョンさんの見事な日本語にも脱帽。その後、場所を移して、張本榮司祭を偲ぶ食事が催され、さらなる宣教の歩みを誓い合いました。

(いわき あきら・前聖ガブリエル教会管理牧師、前在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会委員長)

広島平和礼拝 2017 のご案内

2017年8月5日(土) ~ 6日(日)

場所：広島復活教会、平和公園

テーマ：ともに学び、行動し、祈ろう。そして一步前へ。

聖句：小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。
(ルカによる福音書 12 : 32)

広島平和礼拝の目的

1. 原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る。
2. 時代を担う人たちに原爆の悲惨さ・戦争の愚かさを伝える。
3. 「主の平和」を学び、その実現のために活動する。

申込締切日：7月4日(火)

申込先：申込用紙に記入の上、大阪教区事務所にお送りください。



教区の動き

常置委員会報告

4月12日(第6回定例)

I. 主教報告

*連合男子会「秋の修養会」の講師として植松誠主教を招聘する予定。可能であれば前日に別途会合を考えたい。

*神戸教区主教が定まるまで、

II. その他諸報告

*京都教区との合同教役者会

管理主教として磯主教の神戸教区での働きが相当増すことになる。

*教区の課題として、教区組織の検討・見直し、宣教の5指標の具現化、財政逼迫、聖職者育成等諸問題に対応が必要。

公 示

救主降生2017年5月3日

日本聖公会大阪教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記の人事を発令いたします。

主教 アンデレ 磯 晴久
大阪城南キリスト教会管理牧師の任を解く。

司祭 フランチェスコ 成岡宏晃
大阪城南キリスト教会牧師に任命する。

執事 ペテロ 金山将司
川口基督教会牧師補に任命する。

を6月19日(月)〜21日(水)伊勢シテイホテルで開催。

III. 協議事項

*聖職按手式(成岡宏晃執事、司祭に。金山将司聖職候補生、執事に)準備、実施に関する諸事項確認。

*大阪・京都特別協働教区発足記念行事に関する件の諸事項確認。

5月17日(第7回定例)

I. 主教報告

*奥村貴充司祭母堂が5月14日に逝去され、和泉市で葬儀が営まれた。

*台湾聖公会を訪問し、同聖公会と姉妹教区として宣教協働締結(3年間)の更新調印を5月9日(火)に行った。

今後の予定として、「協力宣教キャンプ」の実施が話し合わせ、今年は8月に台湾で開催が予定されている。

*7月21日(金)〜22日(土)に主教主催の黙想会を宝塚黙想の家で開催する。講師は京都教区スコット・マーレー司

祭。

II. その他諸報告

*守口復活教会は5月7日(日)に教会創立65周年感謝礼拝を開催、これを契機に守口聖オーガスティン教会に名称変更される。

*大阪聖愛教会が5月14日(日)、教会創立70周年記念礼拝を開催。

*5月28日(日)聖公会生野センターがNPO法人総会を開催。財政状況が厳しく、支援が必要とされている。

*6月3日(土)日本福音ルーテル大阪教会でペンテコステ・ヴィジル開催。

*6月3日(土)小名浜聖テモテ教会で東北教区、小名浜支援センター閉所感謝礼拝開催。

*6月18日(日)在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会主催の学習会開催(於、大阪城南キリスト教会)。

*聖職養成委員会は8月10日(木)〜11日(金)、宝塚黙想の家で「聖職への道・教会奉仕者のためのセミナー」を開催予定、講師は京都教区大岡左代子司祭。

III. 協議事項

*教区館玄関前のタイル面の、雨天時歩行の安全性に留意し、敷石張替え工事を行うことを決定。

*石橋聖トマス教会より、同教会に隣接する市管理池が売却され、集合住宅・戸建住宅・公園に造成されることに対し、想定されるトラブル回避のため、市長宛の要望書が出され、このための署名活動に加わろう各教会にアピールする。(以上)

教会・施設の動き

尼崎聖ステパノ教会

○5月28日(日)ミスコックス記念野外礼拝を服部緑地外国人墓地にて行いました。16人の出席。

博愛社

○サテライト特養・清心館竣工式(記念礼拝)を6月28日(水)11時より聖贖主教会で行います。

大阪教区連合男子会

○「植松 誠首座主教と語り合い、耳を傾けましょう」のテーマの集いを主催します。

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 7月12日 (水) 午前10時30分

於 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 司祭 ヨハネ 古澤秀利
 司 祭 ウォルター・J・エドモンズ (1889.7.1 英)
 伝道師 野村 志津 (1997.7.1)
 宣教師 エリザベス・メータ・ソフィー・ヒューボルト (1934.7.5 英)
 伝道師 フィベ 山上 操 (2014.7.9)
 主 教 パウロ 久保淵 豊彦 (2006.7.12)
 主 教 アーサー・ウイリアム・プール (1885.7.14 英)
 宣教師 オクタビア・ジュリアス (1942.7.15 英)
 宣教師 エミリー・サンドル・フォックス (1942.7.20 英)
 司 祭 ヨハネ 木川田 正毅 (1990.7.20)
 司 祭 堀江 議作 (1928.7.21)
 執 事 永田 保治郎 (1941.7.21)
 伝道師 中村 貞子 (1953.7.23)
 宣教師 エセル・アグネス・カーライル (1957.7.23 英)
 司 祭 西田 弥吉 (1945.7.24)
 宣教師 ジェーン・アン・スタベリー (1963.7.24 英)
 司 祭 サムエル 堀江 光児 (1990.7.25)
 主 教 マルコ 小池 俊男 (2011.7.28)
 宣教師 ロレッタ・レオナルド・ショウ (1940.7.29 カナダ)

◇ 8月9日 (水) 午前10時30分

於 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 司祭 ジョイ 千松清美
 主 教 エドワード・ピカステス (1897.8.5 英)
 主 教 ヘンリー・セントジョージ・タッカー (1959.8.8 米)
 宣教師 アグネス・S・ウイリアムス (1970.8.9 英)
 司 祭 ヨハネ 桜井 猶次郎 (1945.8.10)
 主 教 ペテロ 藤本 寿作 (1969.8.10)
 宣教師 シルビア・ルイス・ケンドール・ブッシュ (1966.8.11 英)
 司 祭 関 翔 (1953.8.18)
 宣教師 キャサリン・アリス・サルヴァイン・トリストラム (1948.8.24 英)
 伝道師 ルツ 中村 光尾 (1978.8.30)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



祝受洗

- 日程は10月20日 (金) 午後7時〜9時にレセプション、21日 (土) 午前10時〜12時に講演会。詳細は次号でご案内します。
- 石橋聖トマス教会
 - サムエル (4月2日)
 - 大波 朋毅 (5月7日)
 - 大阪聖三一教会
 - テモテ (4月22日)
 - モニカ
 - バルナバ
 - リディア
 - ミカエラ
 - 大阪聖愛教会
 - シメオン (6月4日)
 - 古澤 麦 (5月7日)
 - 西宮聖ペテロ教会
 - トマス (4月22日)
 - 青柳 正志
 - 川口基督教会
 - ミリアム (2016年12月24日)
 - 古武 静江
 - 堺聖テモテ教会
 - ラファエル (4月16日)
 - 小池光太郎
 - 大阪城南キリスト教会
 - ヴェロニカ (4月16日)
 - 渡壁 友里 (4月16日)
 - 渡壁 里華
 - 聖ガブリエル教会
 - バルナデッタ (5月9日・55歳)
 - 西川佳世子
 - 川口基督教会
 - ピリポ (4月22日・82歳)
 - 三宅 坦

祝初陪餐



- 石橋聖トマス教会
 - エステル (5月7日)
 - 名生 貴子
- 守口聖オーガスティン教会
 - ルツ (5月13日・90歳)
 - 大田 芳子
- 大阪聖パウロ教会
 - モニカ (6月9日・87歳)
 - 山野 敏子

魂の平安を祈ります

お詫びと訂正

教区報第454号の掲載記事に以下の誤りがありました。訂正してお詫びします。

6ページ：在日学習会シリーズ案内 (下から4行目)

*大阪城南キリスト教会の電話・Fax番号

(誤) 電話・Fax 072-953-5444

(正) 電話06-6772-152、Fax06-6772-10686

*8ページ：第5回U26集会 (2段目2行目)

(誤) 26全国集会

(正) U26全国集会

